

## Ⅱ．出雲サンホーム

### ■ 事業計画（令和２年度）

一人ひとりの人権を尊重し、誰もが地域の中で自分らしく、共に生きる社会の実現を目指します。

#### 1) サービス提供

##### (1) その人らしい暮らしを応援します

- ご利用者の人権を尊重し、常にご利用者の立場に立ったサービスを提供します。
- 個々の想いや出来る力に着目した個別支援計画を策定し、実施します。
- ご利用者の選択の場が広がるよう、様々な情報を提供し、自らが望まれる暮らしの実現に向け、チャレンジすることを支援します。
- 社会資源と連携し、ご利用者が地域の中で充実した生活が送られるよう支援します。
- ご家族との連携を深め、共にご利用者を支えます。

##### (2) 選ばれるサービスを目指します

- 地域のニーズ・課題について、情報収集を行います。
- 幅広い世代からご利用いただけるサービスを提供します。
- 二世帯・三世帯利用を推進します。

##### (3) 安全で信頼のおけるサービスに取り組めます

- 職員の確保と質の向上により安定したサービスを提供するとともに、ご利用者の数は、目標数（6020）を堅持します。
- 福祉機器等を効果的に活用し、抱え上げない介護を推進します。
- マニュアルを活用し、事故の未然回避を図り、適正で質の高い安心できるサービスを提供します。
- 事故等が発生した場合は、速やかに対応し再発防止に努めます。
- 法令や職員倫理規定等を遵守し、信頼されるサービスを提供します。
- 個人情報については、利用目的を明確にし、ご利用者・ご家族の理解を得ながら慎重に取り扱い秘密を守ります。
- 事業所での自己評価や外部評価、また、ご利用者やご家族の意見等を真摯に受け止めサービスの向上に努めます。

#### 2) 人材育成

##### (1) 職員の資質向上を目指します

- 職員一人ひとりが、仲間を思いやり、チーム力を高めます。
- 職員の指導・育成は、エルダー制の実施やマニュアルに基づいて行います。
- 階層別の役割とその求められる能力を理解し、自己の向上に努めます。
- ご利用者との関わりや地域との交流を通し、心豊かな人材となるよう努めます。

#### 3) 地域貢献

##### (1) 地域福祉の拠点を目指します

- 地域と積極的に関わり連携を深め、施設の機能と強みを活かして、求められるニーズに柔軟に対応します。
- 地域の団体と協働し、地域の課題に取り組みます。
- みつばち・交流ホームを地域の方に活用していただけるよう、積極的に取り組みます。
- 施設の取り組みや魅力を発信し、また、福祉の幅広い情報を提供します。

## 4) 食生活

### (1) 楽しみのある食事を提供します

- ご利用者の声に応え、「楽しさ」「おいしさ」が感じられる食事提供に努めます。
- 旬の食材、季節の行事食を取り入れ、「季節を感じる食事」を提供します。

### (2) 一人ひとりの健康を支えます

- ご利用者と共に食生活と健康について考え、ご家族と連携をとりながら一人ひとりのニーズと栄養・健康状態に着目した栄養ケアマネジメントを行います。
- 栄養ケア計画書に基づいて食生活を支援し、健康の維持・増進につなげます。
- 在宅ご利用者の食事と健康について共に考えていきます。

### (3) 食の安全に取り組みます

- ご利用者と共に安全と衛生に心がけ、食中毒、感染症対策に努めます。

## 5) 医 療

### (1) ご利用者の健康維持を推進します

- 日々の健康状態を把握し、疾病の予防・早期発見に努め、ご利用者が健康で過ごせるよう支援します。
- 全身的な健康維持の為に、口腔ケアを徹底します。
- 入所ご利用者へ健康診断（血液検査・胸部レントゲン検査等）を実施します。
- 体調不良時、緊急時には迅速な対応を行います。
- ご家族、嘱託医や他の医療機関との連携を密にし、適切な処置・対応を行います。

### (2) 感染症対策に努めます

- 感染症の流行情報を収集・伝達し、感染予防に取り組み、未然回避に努めます。
- 感染症発生時には、リスクマネジメント委員会と共に発生状況を把握し、マニュアルに沿って感染の拡大防止に努めます。

### (3) 安全衛生に努めます

- 安全で快適な職場環境を整えます。
- 職員の健康診断を行い生活習慣病の予防、産業医と連携しメンタルヘルスケアに努めます。
- 福祉機器等を導入・活用し、職員の腰痛予防に努めます。

## 6) リハビリテーション

### (1) 一人ひとりの力を日々の生活につなげます

- 先の暮らしを見据えながら、個々のニーズと状況に応じた計画書に基づいてリハビリを実施します。
- 他職種と情報を共有し、日々の生活の中で持っている力を活かせるよう支援します。
- 「出来る」を見つけ「出来た」を共感することで、新たな一歩が踏み出せ、暮らしの場が広がるよう支援します。

### (2) 福祉用具の活用や生活環境の改善を行い、生活の質の向上を図ります

- 心身機能の変化や使用環境に適した福祉用具を活用出来るよう、関係諸機関と連携を取りながら相談対応や情報提供を行います。
- ご利用者と共に生活環境について考え、自立の可能性が広がるよう支援します。

## 7) 住環境

### (1) 快適な住環境の維持・改善に努めます

- 清潔で快適に過ごせるよう、ご利用者と共に生活環境を整えます。

- 建物・設備・機器の整備、維持管理に努め、安全で快適な住環境を提供します。
- 業務の効率化に努めます。

## **(2) おもてなしの心を大切にします**

- 明るく思いやりのある対応に心がけ、心地良い空間を作ります。

# **8) 防災・防犯**

## **(1) 災害及び緊急事態に備え、防災管理体制を整えます**

- 生命の安全を確保する為の環境をご利用者と共に整えます。
- 消防計画、地震防災管理計画、洪水時の避難確保計画、事業継続計画に基づき、法人内施設や地域との連携を図り緊急時の管理体制を整えます。
- 災害時における必要な備蓄品を確保し、緊急時に備えます。

## **(2) 定期的な防災・防犯訓練を実施します**

- 地域及び関係諸機関と連携を図り、訓練の実施にあたっては、初動対応から一連の流れを検証し実践力を高めます。

# **9) 相談支援事業（特定相談支援・障害児相談支援・一般相談支援）**

## **(1) 一人ひとりの想いを尊重し、暮らしを支えます**

- 年齢や障害種別、住まいの場等に関わりなく、その人らしくいきいきとした暮らしが実現できるようケアマネジメントします。
- サービス等利用計画は、ご利用者やご家族の意見を伺いながら、各関係機関との連携のもと情報の共有を図り、適切な福祉サービスの利用と社会参加や自律につながるよう作成し支援します。
- 施設や病院からの地域移行は、自分で選んだ住まいの場での生活が実現できるよう、体験利用や体験宿泊をするなど、新たな一歩を応援します。
- 緊急事態に対応できるよう体制を整え、地域での生活が継続できるよう支援します。
- 障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行は、ご利用者やご家族の想いを大切にしながら進めます。
- 情報発信の窓口として、ニーズに即した情報の提供を行います。

## **(2) 必要とされるサービスを「かたち」にします**

- 地域のニーズや情報を基に、地域の方や行政、各関係機関との連携を図りながら地域の社会資源の開発・改善に努めます。
- 地域の多様なニーズに耳を傾け、必要とされるサービスを出雲サンホームで展開できるよう共に努めます。

## **(3) サービスの改善に取り組みます**

- 事業所での自己評価や外部評価、またご利用者やご家族の意見等を真摯に受け止め、サービスの向上に努めます。

## ■ 事業報告

### 1 主要事項

令和2年度出雲サンホームの利用状況は次のとおりとなった。(単位％、以下同じ)

- 施設入所支援事業(定員60)の利用率： 99.3(前年度 98.2)
- 生活介護事業(定員60)の利用率： 102.5(前年度 97.6)
- 短期入所・共生型短期入所事業(定員8)の利用率： 26.2(前年度 33.9)

施設入所支援事業は入所率100%の状態で新年度をスタートした。途中1名の退所があり新規入所者を迎えるまでに多少の期間があったが、長期入院者も少なく、延入院日数も昨年度の半分以下となり、年間を通してみると100%をわずかに下回る程度となった。生活介護事業はコロナ禍の中100%を超える利用率であった。引き続き100%を維持できるよう新規利用者を受け入れていきたい。また、短期入所事業においては、年度当初は新型コロナウイルス感染対策により利用率が大幅に下がったものの、感染状況を見ながら受け入れを行い少しずつ利用も回復した。今後は、共生型短期入所事業も合わせ利用の増加を目指し取り組んでいきたい。

地域福祉サービスセンターソレイユの利用状況は次のとおりとなった。

- 生活介護・共生型通所介護事業(定員20)の利用率： 67.6(前年度 74.0)
- 自立訓練事業(定員6)： 16.5(前年度 15.2)
- 放課後等デイサービス事業(定員5)： 54.9(前年度 57.0)

生活介護事業は新規利用者5名に対し、終了者が6名と上回ったが、共生型通所介護事業への移行もあり利用維持に繋がっている。利用率を見ると昨年度より下がっており、新たな利用者獲得に向けた動きが必要である。自立訓練事業、放課後等デイサービスにおいても、事業所の機能や魅力を発信しながら、新規利用の獲得に向け動いていきたい。

施設整備としては、介護見守りセンサー6台、マッスルスーツ2台の購入とパソコンのシステム更新を行った。今後ご利用者の快適性と職員の業務の省力化が図れるよう施設設備を整備していきたい。

地域活動では、コロナ禍の影響を大きく受け介護教室、夏休みこども福祉教室など例年行っている活動は中止となった。また、平成22年にオープンし地域活動の拠点にもなっていた「ふらっとサロンみつばち」が8月に閉店となり10年の幕を閉じた。今後は新型コロナウイルスの感染状況を見守りつつ地域との継続した繋がりや新たな拠点作りなども進めていきたい。

## 2 評価・反省

### 1) サービス提供

#### 【障害者支援施設 出雲サンホーム】

##### 生活介護事業・施設入所支援事業

新型コロナウイルス感染症対策のため、外出・面会制限があり、ご利用者にご協力頂くことが多い1年だった。万が一の場合に備えて、区画分け、職員配置をシミュレーションし、実際に職員の動き等の確認を行った。活動においても、当初はどのように行えばよいのか試行錯誤したが、密を避けて少人数での実施や、個別の対応など、状況に応じて工夫しながら支援を行った。

そのような状況においても、ご利用者の人権を尊重し、個々の思いや出来る力に着目した個別支援計画を作成、計画に基づいたサービス提供に努めた。また、よりご利用者とのコミュニケーションを大切にしながら、今できる中での情報提供をし、選択肢の中から選んで頂くことに努め、自己選択の場が広がるよう支援した。ご利用者一人ひとりが望まれる生活が実現できるよう、多職種が連携しご家族の協力も得ながら支援を行った。

サンSUNまつりも残念ながら中止となり、施設内においても地域の方との積極的な交流は少な

かったが、感染状況をみながらの面会や外出等実施し、地域との関わりを持つことで、ご利用者が地域住民の一員として、地域の中で充実した生活が送られるよう支援を行った。

ご家族の皆様には、面会制限に対してもご協力を頂いた。家族会も例年のような内容の活動は出来なかったが、サンＳＵＮまつりに代わり、施設内で納涼祭を行った際には、抽選の景品の協賛を頂いた。また、家族会研修会として平田の木綿街道への外出を企画し、ご利用者とご家族と一緒に楽しめる機会を持つことができた。

安心で信頼のおけるサービス提供に向け、職員に対して福祉用具やリフター使用についての指導を行い、抱え上げない介護の実践に向け取り組んだ。また、「倫理規定に基づく行動指針」に目を通し、職員一人ひとりが権利擁護の意識を高め統一した支援が行えるよう努めた。

しばらくは感染状況をみながらの対応になると思われるが、ご利用者一人ひとりの想いを大切にしながら、望まれる暮らしの実現に向け、より良いサービス提供に努めていきたい。そして、地域とのつながりを大切にし、求められるニーズに対応しながら、地域の福祉拠点を目指していきたい。

### **短期入所事業・日中一時支援事業**

４月当初は新型コロナウイルスの影響でご利用が少なかったが、定期的利用や希望に合わせて短期入所、日中一時を調整し受け入れることができた。緊急時の利用依頼もお断りすることなく受け入れを行った。昨年度より開始した共生型短期入所事業でも、介護保険移行後も慣れた環境で継続して利用ができると喜ばれ、各事業共幅広く利用されている。

支援会議に参加し関係機関と情報共有することで、個々の身体状況、障害特性に合わせた支援方法を把握しケアや支援を行うことができた。事業所での様子もご家族に書面や口頭でお伝えすることにより安心してご利用して頂くことができた。

今後も地域の方が安心して在宅で暮らせる様、個々のニーズを汲み取りより良いサービス提供に努めていきたい。

## **【地域福祉サービスセンター ソレイユ】**

### **生活介護事業・自立訓練事業・共生型通所介護事業**

ご利用者の人権を尊重し、一人ひとりの想いに添った個別支援計画を作成し、計画に基づいたサービス提供に努めた。また、ご家族や相談支援専門員、関係機関とも情報交換を図り、ご利用者のニーズを共有し連携を深めながら関わることでより良い支援に繋げることができた。

支援においては、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、感染症対策を徹底しながら、ご利用者同士が密にならないよう環境に配慮し、ご利用者からの発信や季節に応じた創作、スポーツ系の活動等を取り入れ実施した。また、感染状況を見ながら外出の機会を設け、コロナ禍でも楽しく過ごせるよう努めた。

機能訓練では、ご利用者個々のニーズや状況に応じた個別支援計画を作成し、身体機能の維持と在宅生活が継続していけるよう、リハビリの専門職や関係機関と情報交換し連携しながら支援を行った。

共生型通所介護事業は、介護保険への移行によりご利用される方も増え、これまでと変わらない環境の中で安心してご利用して頂いている。活動や身体状況など個々の状態やニーズに合わせながら支援を行い、他ご利用者との関わりは幅広い世代との交流の機会にもなっている。

今後も、ご利用者個々のニーズを大切にし、住み慣れた地域の中で望まれる暮らしができるよう、事業所の強みや特色を活かしながら、より良いサービス提供に努めていきたい。

### **障害児通所支援事業**

ご利用児一人ひとりの人権を尊重し、障害特性を理解し、個別支援計画を基に支援を行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に伴う、学校休業の期間もあり、児童を取り巻く環境にも影響があった。



感染予防対策としては、マスク着用ができない児童もいる中、より手洗い、うがい、定期的な施設の換気、使用器具の消毒等を基本とし、感染予防に十分に配慮し対応した。密を避ける為、過ごしの環境も変え、児童同士の距離が近くならないよう気を付け、感染の状況を見ながら個別の活動を中心に行った。

活動では、カレンダーや季節感のある創作を多く取り入れ、ご利用児個々の能力、機能に応じた方法で行い、個性あふれる作品が出来上がった。また、プラスチックカップの容器でカイワレを育てた際には、個々に応じ、カップを装飾すること、育つ工程を観察することを目的とし、植物が育つ楽しみを感じてもらった。

個別の活動が多かったが、そのような中でも、ご利用児同士が互いに気遣う姿をみることができたり、様々な環境の変化にも動揺されることない姿に、成長を感じる1年であった。

今後も、それぞれの関係機関、相談支援専門員と情報交換や連携を密に図ることで、統一した支援やケアを行い、ご利用児の持つ可能性の発見や、個々の成長に応じた力が伸ばせるよう支援を行うと共に、地域の中で安心して利用して頂ける環境や支援の工夫を行っていきたい。

## 2) 人材育成

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、施設外研修の中止や変更はあったが、感染症の状況をみながら参加可能な研修に参加し、専門的な知識や技術を学び自己研鑽を積む機会を設けた。

職員の育成においては、新人職員にはエルダー制による指導を行った。また、新職員やエルダー職員の意見交換を行い、日頃の業務の中での悩みや疑問を共有することで不安を軽減することができ、双方のスキルアップにも繋がった。現任職員の意見交換会も継続して行い、互いの思いや人材育成・業務改善等を挙げ、課題を共有し解決できるよう努めた。

今後も職員一人一人が自己の向上に努め、職員同士が互いを思いやりチーム力を高めながら、より質の高いサービスを提供していきたい。

## 3) 地域貢献

新型コロナウイルス感染症拡大により、例年行っていた介護教室やボランティア活動、地域との交流を行うことはできなかったが、介護予防体操や施設での様々な取り組みや活動の様子を広報誌やホームページで紹介し、情報発信に努めた。

今後も感染状況をみながらの対応にはなるが、適切な感染予防対策下での介護教室の実施やボランティアの受け入れ、地域との交流などを模索し、様々な情報発信を積極的、継続的にを行い、施設の強みや機能を活かしながら、地域の団体と共同し、地域の課題に取り組んでいきたい。

## 4) 食生活

ご利用者の嗜好や要望を取り入れたり、旬の食材を用いた季節の料理や行事食、地元の味、手作り料理について随時検討し提供した。また、より食べやすい調理方法の工夫や、ソフト食についても取り組み、主菜のソフト食提供回数が増えた。

新型コロナウイルス感染症対策として、楽しみにされている盛り合わせ料理や鍋からの取り分け、小グループでの食事は中止し、食堂の席も対面や密状態を避けるように配慮した。代わりの楽しみとして、介護職員とも協力し、カレーやおでんなど盛り付けながらの配膳やお好み焼き、餃子などホットプレートで直前に焼いて匂いも届け、「熱々で美味しかった」と満足の笑顔が見られた。

一人ひとりの健康に繋がる食生活支援としては、高齢化・重度化による咀嚼嚥下力の低下がすすんでいるため、新型コロナウイルス感染症対策に応じた口腔体操の実施や食形態、とろみ量、姿勢や介助方法などを継続して多職種と検討している。また栄養補助食品も積極的に取り入れている。その結果食事摂取量が増加し、それに伴い体調が回復し、元気に過ごされるなど効果が表れている。間食についてもご本人の希望も大切にしながら、個々に適した量など随時検討し、繰り返しアドバイスを行い、健康の維持に努めた。個人購入品が多い方は食生活の偏りや体調が崩れる傾向にあるため、個々に適した食生活への継続した支援が課題である。

また、災害時等の緊急事態に備え、備蓄食品を使った食事提供の訓練を定期的に行っている。今年度は2回実施した。

今後もご利用者が楽しめるような食事提供や、健康に過ごされるように多職種で連携し、より良い食生活支援へつなげたい。

## 5) 医 療

ご利用者が健康に過ごして頂けるよう、食事前の口腔体操や口腔内のチェックを行い、口腔ケアの徹底に努めた。また、年に2回の血液検査や年に1回のレントゲン検査の実施、日々のバイタル、食事、排泄等を把握し、多職種間で情報共有を図りながら体調管理と体調不良時の早期発見、早期対応に努めた。その結果、昨年度に比べ入院者数がかなり減少した。

新型コロナウイルス感染症対策にて、リスクマネジメント委員会と協力しながら、ご利用者・職員の検温、早い段階から加湿器を使用し室温・湿度の管理、換気、手洗い・うがい・消毒を徹底した。新型コロナウイルスをはじめ、インフルエンザ、ノロウイルス等感染症に罹られる方もおられなかった。

産業医による職員との面談を毎月開催しメンタルヘルスに努めた。

## 6) リハビリテーション

ご利用者個々のニーズや身体状況に応じたりハビリを実施し、機能の維持改善に努めたが、職員体制の都合もあり、挑戦したいことへの検討や対応、生活の場での動作練習等は十分には実施できなかった。

個別のリハビリを実施していないご利用者に対しても、車椅子乗車時、食事時の姿勢や自助具の活用、ベッド上での体転枕の当て方など、ご利用者の機能を活かしながら、負担少なく日々過ごせるよう、多職種で検討し対応を行った。

福祉用具の活用については関係諸機関と連携し、デモ機の試用や課題の検討を共に行い、個々に適したものの提供に努めた。今後も現状維持に留まらず、各専門性を活かしながら、他職種と連携し支援していきたい。

## 7) 住環境

新型コロナウイルスの感染状況をみながらボランティアの方に、車椅子掃除を行って頂いた。また、月に1回一斉清掃として、職員が窓拭きや換気扇・フィルター掃除、浴室の大掃除などを行い、ご利用者に日々気持ち良く生活して頂けるよう、清掃や整理整頓に努めた。1日30分間の『クリーンタイム』を設け、居室整理や普段掃除ができない箇所の清掃を行っているが、今後もご利用者と一緒に環境整備を行えるよう継続して実施していきたい。

今年度は施設への出入りや面会の制限があり来訪者と接する機会は少なかったが、おもてなしの心を持って対応することができた。来訪者はもちろんご利用者、職員同士、思いやりの心を持って対応できるよう努めていきたい。

## 8) 防災・防犯

火災避難訓練や不審者対応訓練については、新型コロナウイルスの感染対策を取りながら例年の規模や内容では行えなかったが、担当内で連携し実施した。訓練や研修を通して課題を共有し、日頃からの災害や緊急時への備えの重要性を確認した。自然災害研修については今年度より市役所の防災安全課の方を講師に実施した。

今年度新たに「防災備蓄」の委員会を立ち上げた。災害が発生しライフラインが止まった場合でも、ご利用者の生活にできるだけ支障をきたさぬよう、必用物品や数を見極め整えていきたい。

今後もご利用者・職員一人ひとりが防災・防犯に対して意識を持ち、地域や関係機関との連携を深め、各マニュアル等も見直し・整備しながら、いざという時に対応できるように備えていきたい。

## 9) 相談支援事業所

ご利用者からの様々な相談に対し、思いに寄り添い希望される生活や、自己実現に向けご家族や行政、サービス提供事業所の関係機関と連携しながら支援に努めた。

今年度は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、訪問を控え、電話にて連絡調整、モニタリング、支援会議等、電話での対応が主となったが、多様化した相談への対応を変わることなく行うことができた。

出雲市障がい者施策推進協議会に参加し、サービス調整運営会議や専門部会では、出雲市地域生活支援拠点（ささえ愛サポート）の整備に努めた。

今後も自立支援協議会や関係機関との連携を深め、相談支援の資質向上を目指し、ご利用者の望まれる暮らしの実現に向け務めていきたい。